

新金瓶梅編
初集上
馬琴作
豐國画

Gōkan: (No.
Shimpen Ki
Book 1--5.

13
3724
1

30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4
5
6
7
8
9

門へ13
2724

壹

金瓶梅二百回清の康熙乙亥不敬齋謝頤序の作と云
又鳳洲の年集にもいふ抑彼書演義の六期来の巨著西州啓の第一期
淫樂の語説まとの九友應伯爵序の玉皇玉皇不羨と結ぶと胡場小書
この時武松が景陽岡を虎搏する風声の伴は全波全流金蓮等の武植
恥を毒殺の西之圓則水滸と同意と文と易なる処も有り畢竟水滸の西州啓
金蓮が奸通の妻悪の談は父母とくを作設る但武松が復讐の二條の策
八十七回在り是る先西州啓の胡製の房藥と過食と遠の身と腰子集
七十七回在り是武太郎と藥鴉せし悪報との張竹坡が評論の金瑞が水
滸傳の外書批評の做ら因て勸懲の傳會に勉て作者と資はもの
る彼書の宣淫道然る君臣父子の間ある讀みさうの言くありあ
るの唐山の書西夏水滸西遊二国演義と金瓶との四大奇書とを
履不文の佳妙ると根藝時好稱へるんやとて視之と云るの趣

俗の情態を寫すの彼書舶来せよ以来書名漸々此間高
くあつて俗口をの書名と知むとも得て讀めあると稀に見る彼
書中其方言洒落のゆり一はともある且通俗の譯文を彼の俗語の
陳述の讀め知らぬ論し自不彼書縁や戯れ今這策子と書せ

とも敢鳳洲の題單不倣るまの編發端八卷の二は素より彼書の所
咸予が意匠の出入る是より下もの撰藝の甚しに刪去易らざる善の
話説を以ての取のたれを取らるる所を放下して別の新研を撰
め也との故の翻案筆削總々傾城水滸傳と同トく器具眼の看言知
旨の諸君子甘一鹹一を紙背と作者の用意を知らるる亦九二冊
子とのては所となく和漢との差ある成りらん

文政十四年辛卯春正月吉日新鐫 曲亭馬琴自叙



金瓶梅第一集



矢瀨
文具兵衛

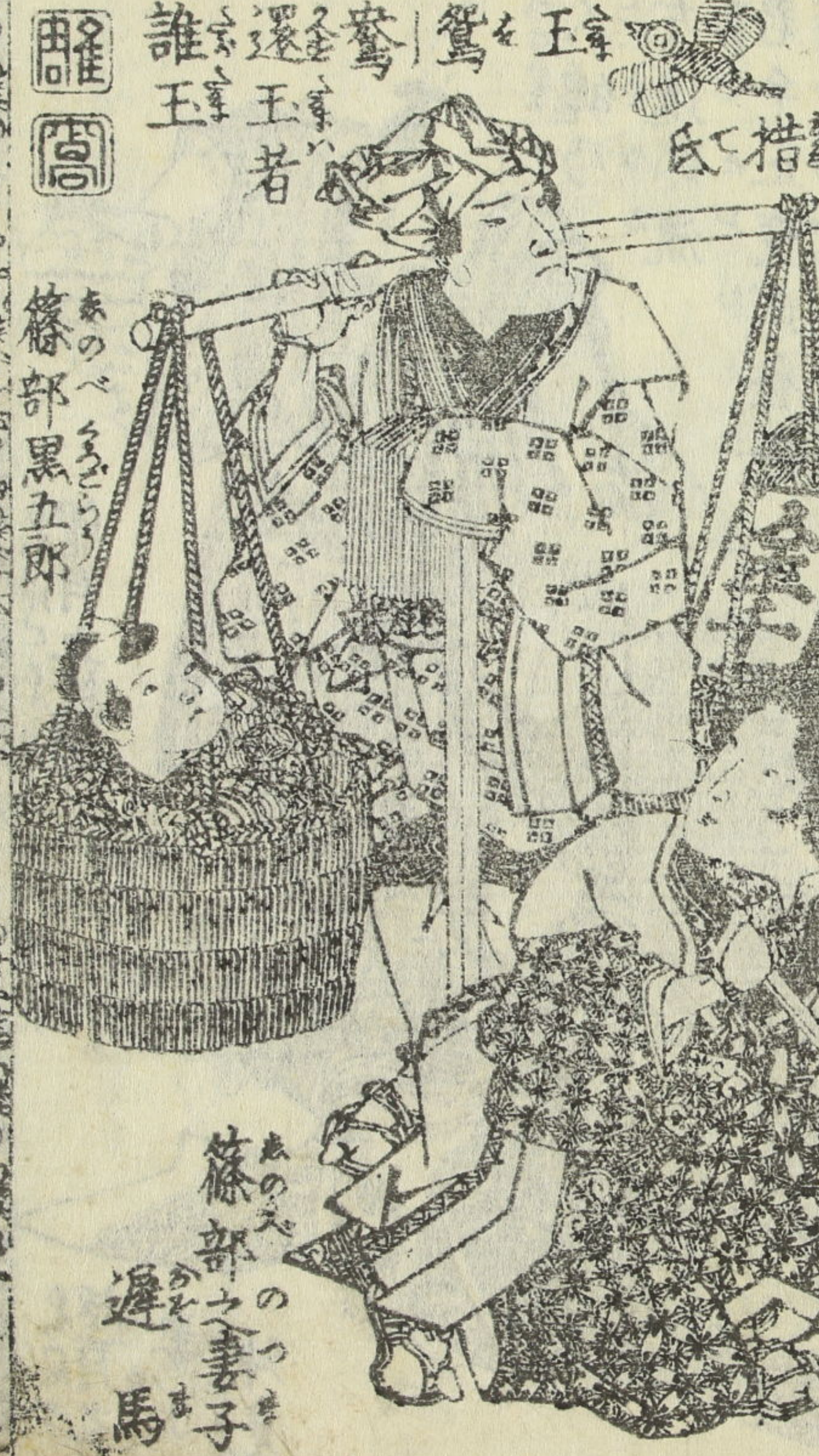


大原
武太郎

性
益

羽子
悲
後
優

勾津日乃玉
美曾加介



藤部黒五郎

藤部之妻子
馬

誰
玉

還
玉
者

氏措

虎平搏
怨を
復を
流の
片の
名を
あけ
今と
本云



小助武松

主魯
横六

頼昌

人魄乃
左遠那流
君平止度武登母
襲奈安宅志下之
衣之通魔

墨山



望月五紋次

望月之
妻子
沖見





この世の人の心は... 子もまじりて... 定むるは... 人の心は...

は... 人の心は... 定むるは... 人の心は...

この世の人の心は... 子もまじりて... 定むるは... 人の心は...



この世の人の心は... 子もまじりて... 定むるは... 人の心は...

は... 人の心は... 定むるは... 人の心は...

この世の人の心は... 子もまじりて... 定むるは... 人の心は...



ふららと云ふは... 月... 此の物語は...

ふららと云ふは... 月... 此の物語は...

ふららと云ふは... 月... 此の物語は...

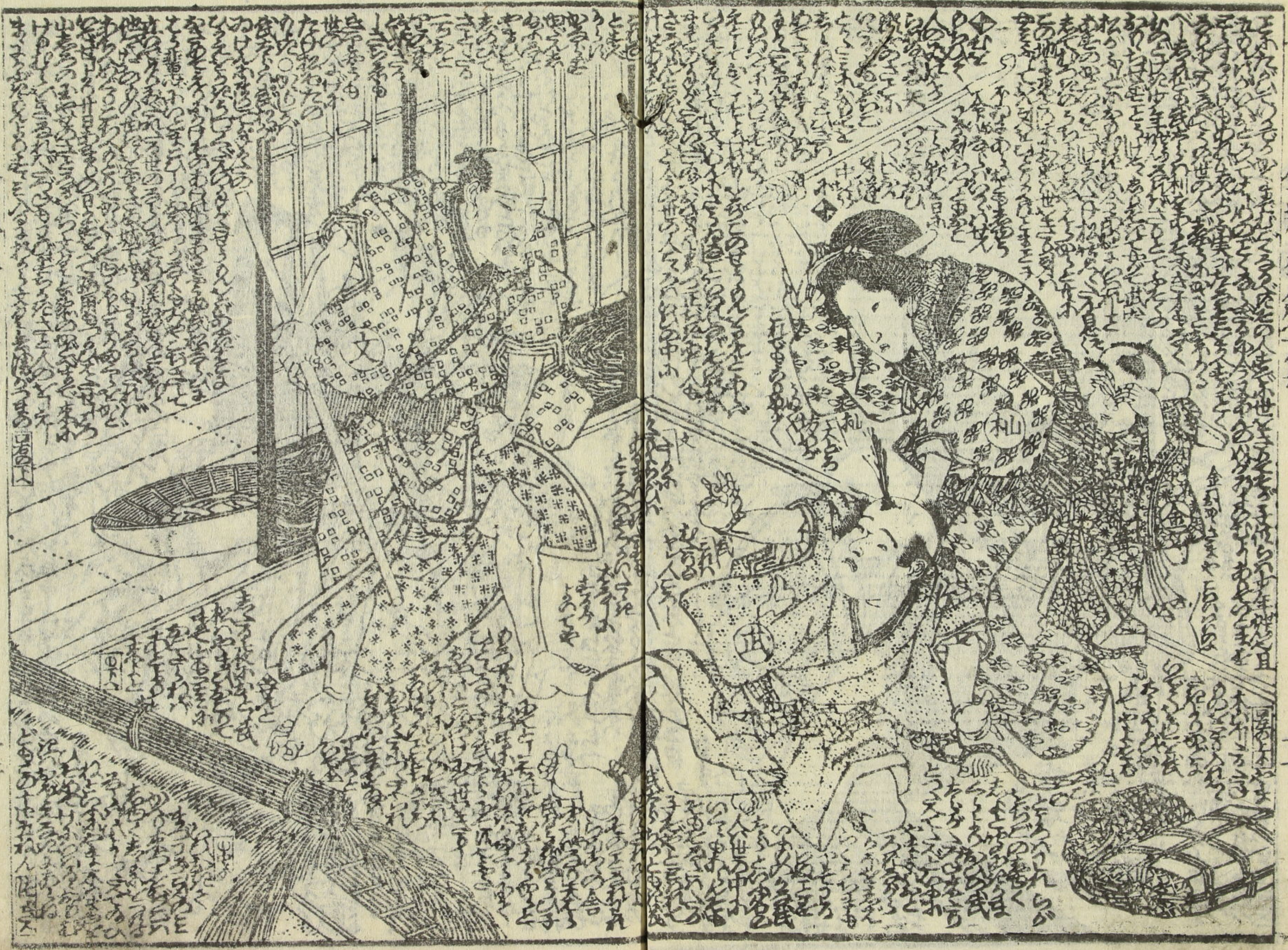
ふららと云ふは... 月... 此の物語は...

金瓶梅第一集



金瓶梅第一集

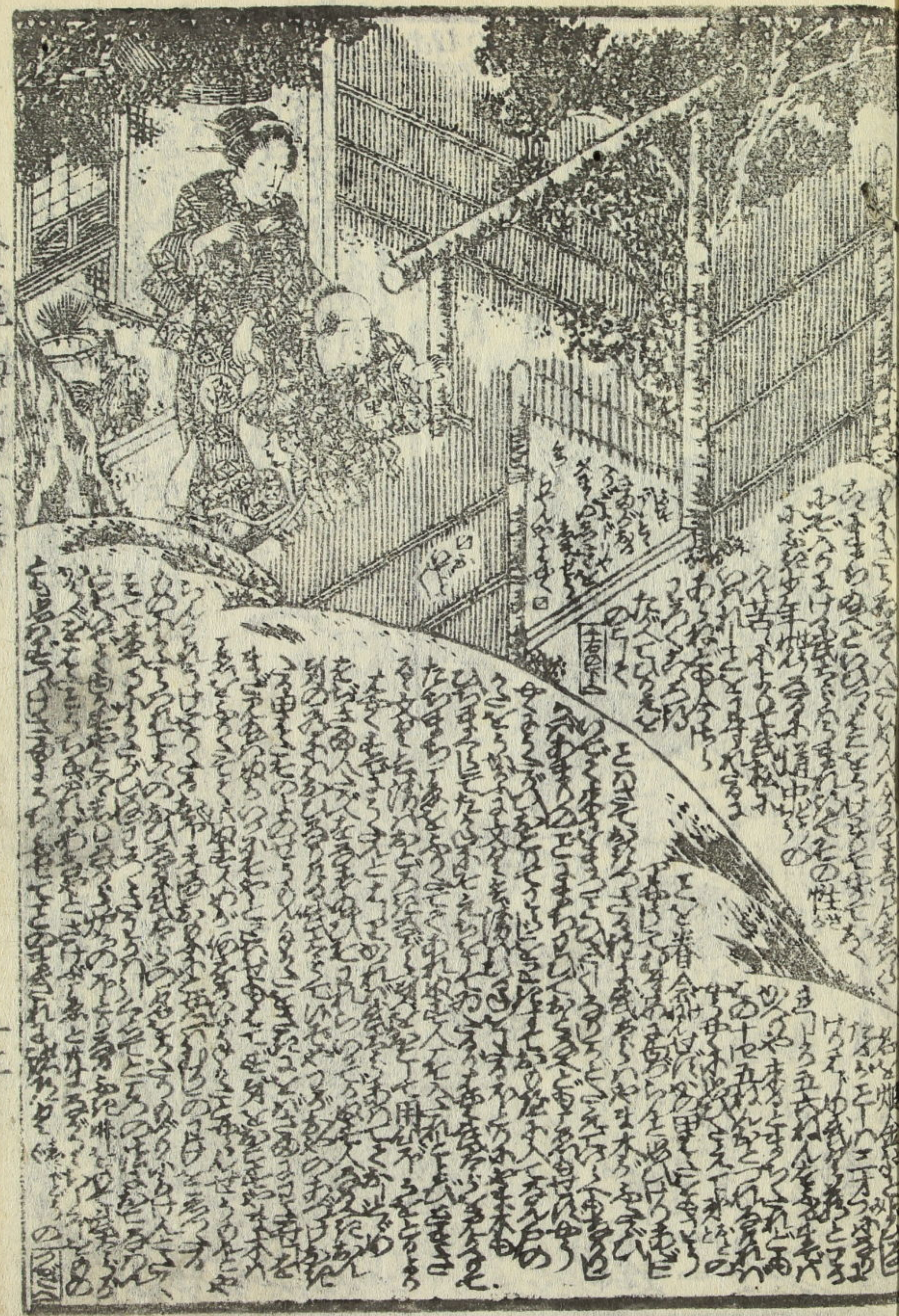
カ

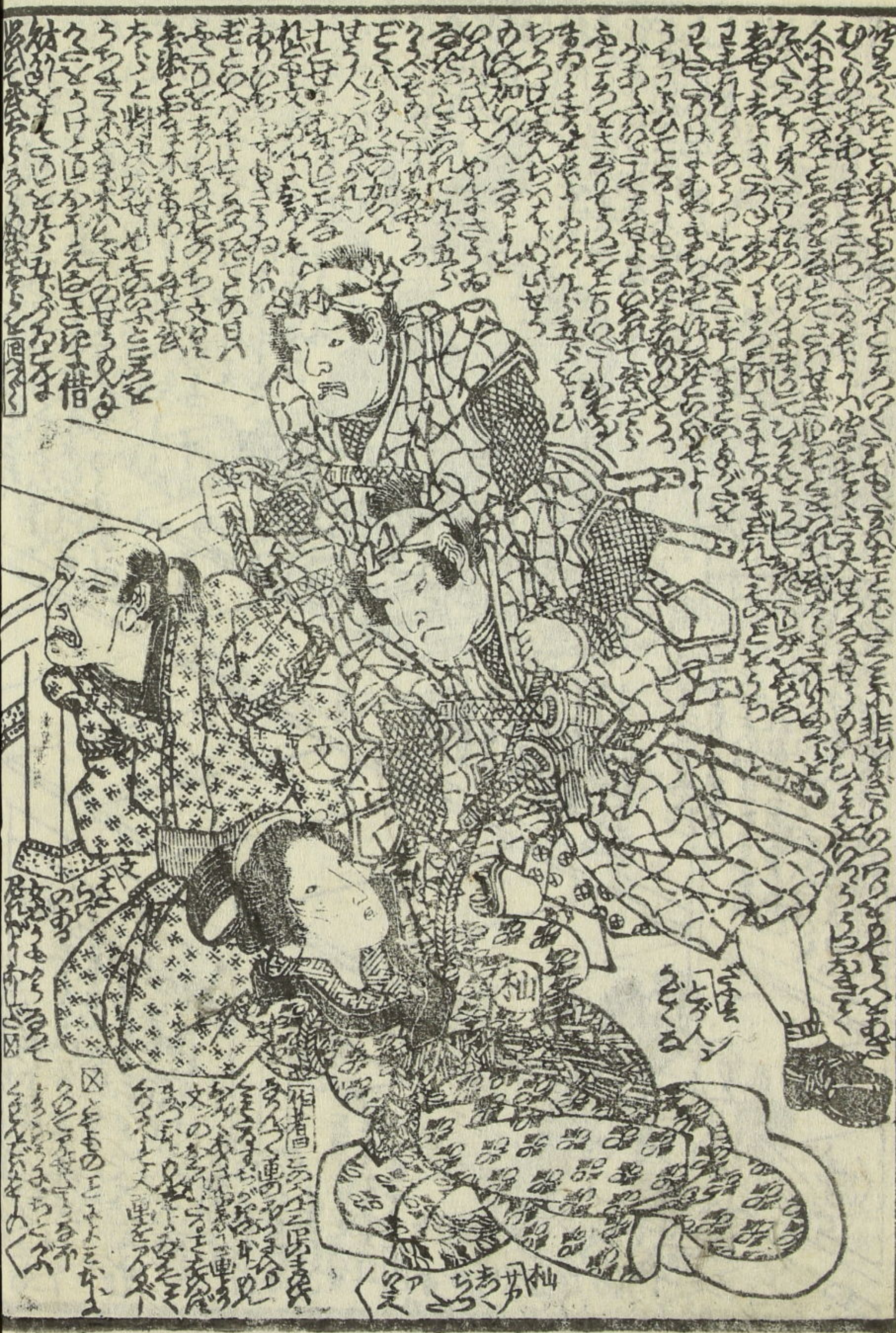


金瓶梅第二集

世の中は... 文... 山... 金... 武... 金瓶梅第二集

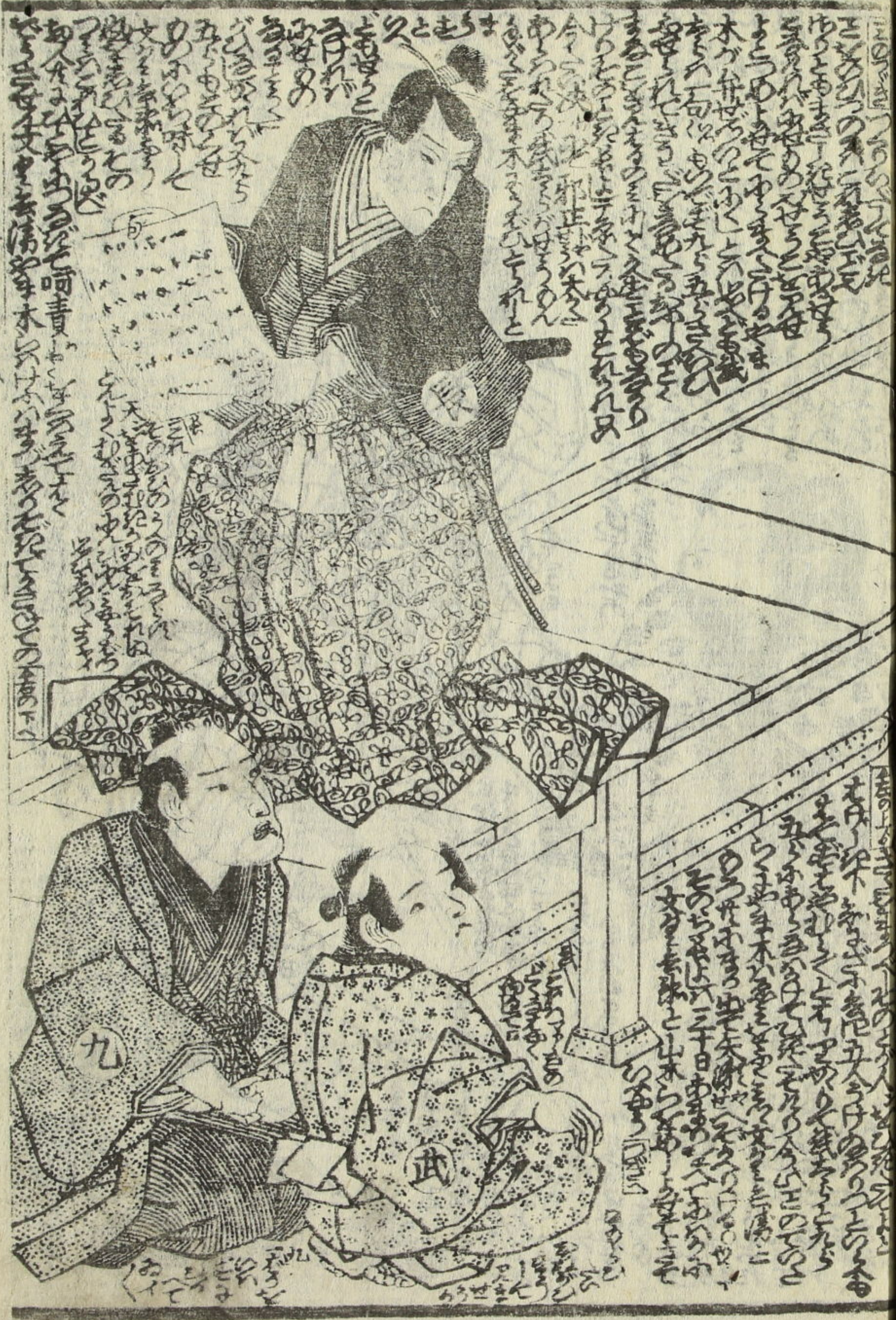
世の中は... 山... 金... 武... 金瓶梅第二集





この世は夢の如きものなり... 人の心は雲の如きものなり... 世の常は水の如きものなり...

武大郎は... 武大郎は... 武大郎は... 武大郎は... 武大郎は...



武大郎は... 武大郎は... 武大郎は... 武大郎は... 武大郎は...

武大郎は... 武大郎は... 武大郎は... 武大郎は... 武大郎は...

Vertical columns of Japanese text in kuzushiji script, surrounding the illustrations on both pages.

金瓶梅第一集



慙

馬琴作



家傳神女湯... 精製奇應丸... 熊胆黑丸子... 婦人死虫の妙法... 神田明神下... 瀧沢氏

國安画

新編金瓶梅十集

曲亭馬琴作 一陽齋豊國画

女郎花五色石臺

初編曲亭馬琴作 四冊 一陽齋豊國画

兎雷也豪傑譚七篇

美圖垣笑顔作 一陽齋豊國画



菊花壇養種

初篇全一冊

菊の種考の風流... 美圖垣笑顔作

曲亭馬琴著

每編八号合本四册辛卯孟春印發

既自是上著
大原新田

飾故御錦做二色黑白立地見京兆明斷

新篇金瓶梅第輯下

從此下者
條部舊述

倒所親金為焦根榮枯倏忽變痴漢薄命

歌川國安畫

江戸廿之神明前書肆和泉屋市兵衛



金瓶梅第一集

あまのついでに...
あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

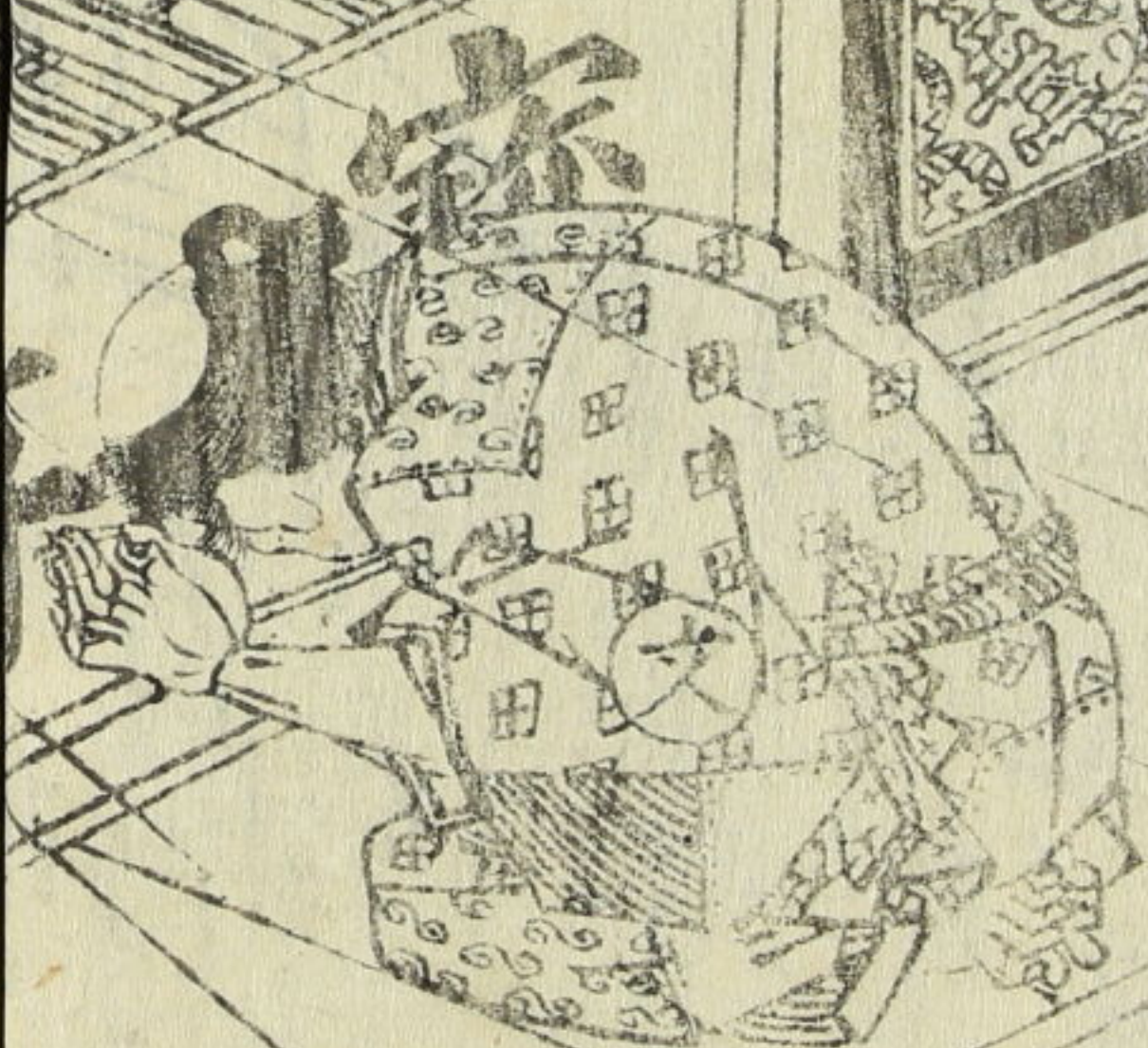
あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...



あまのついでに...
あまのついでに...



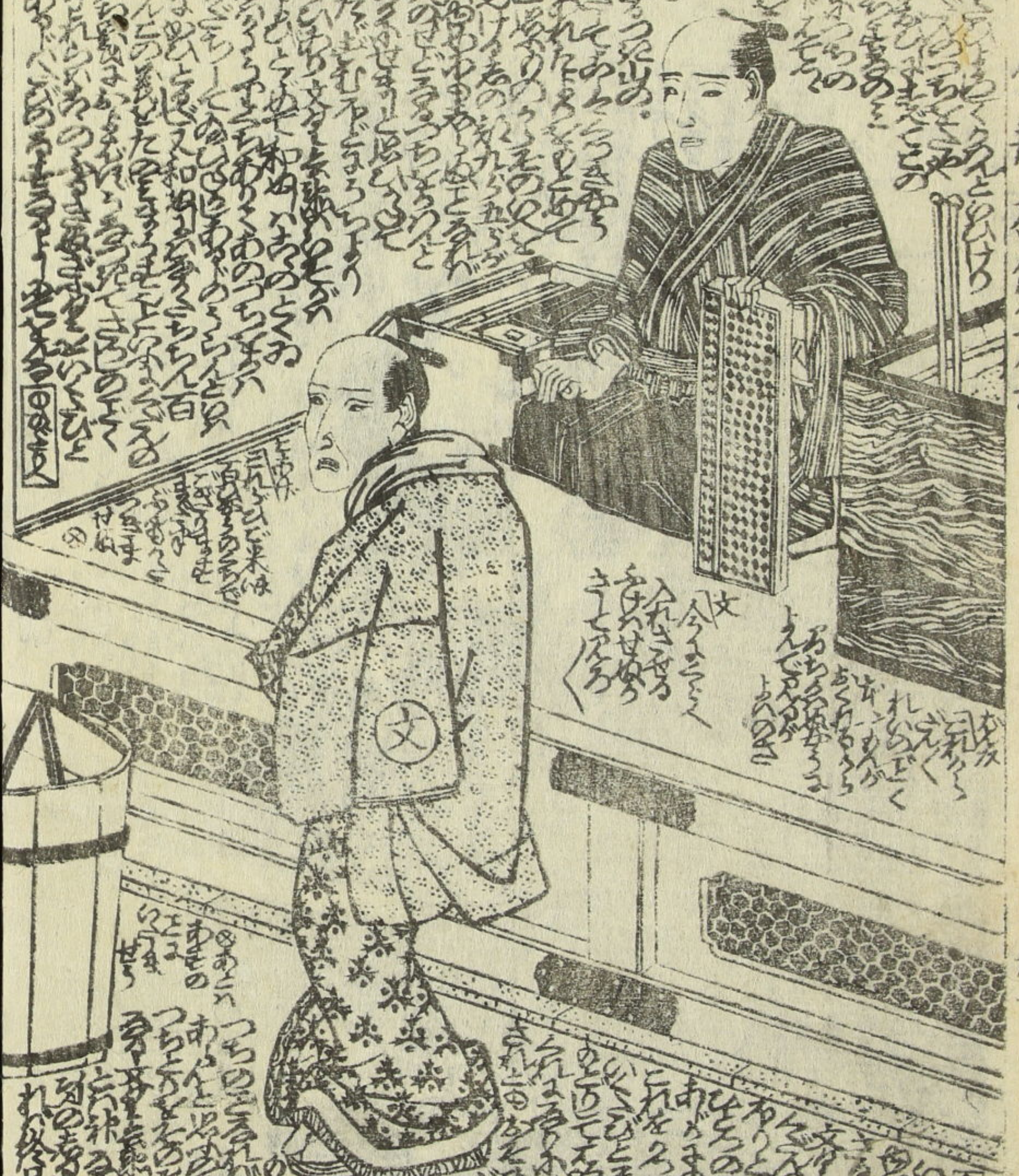
あまのついでに...
あまのついでに...

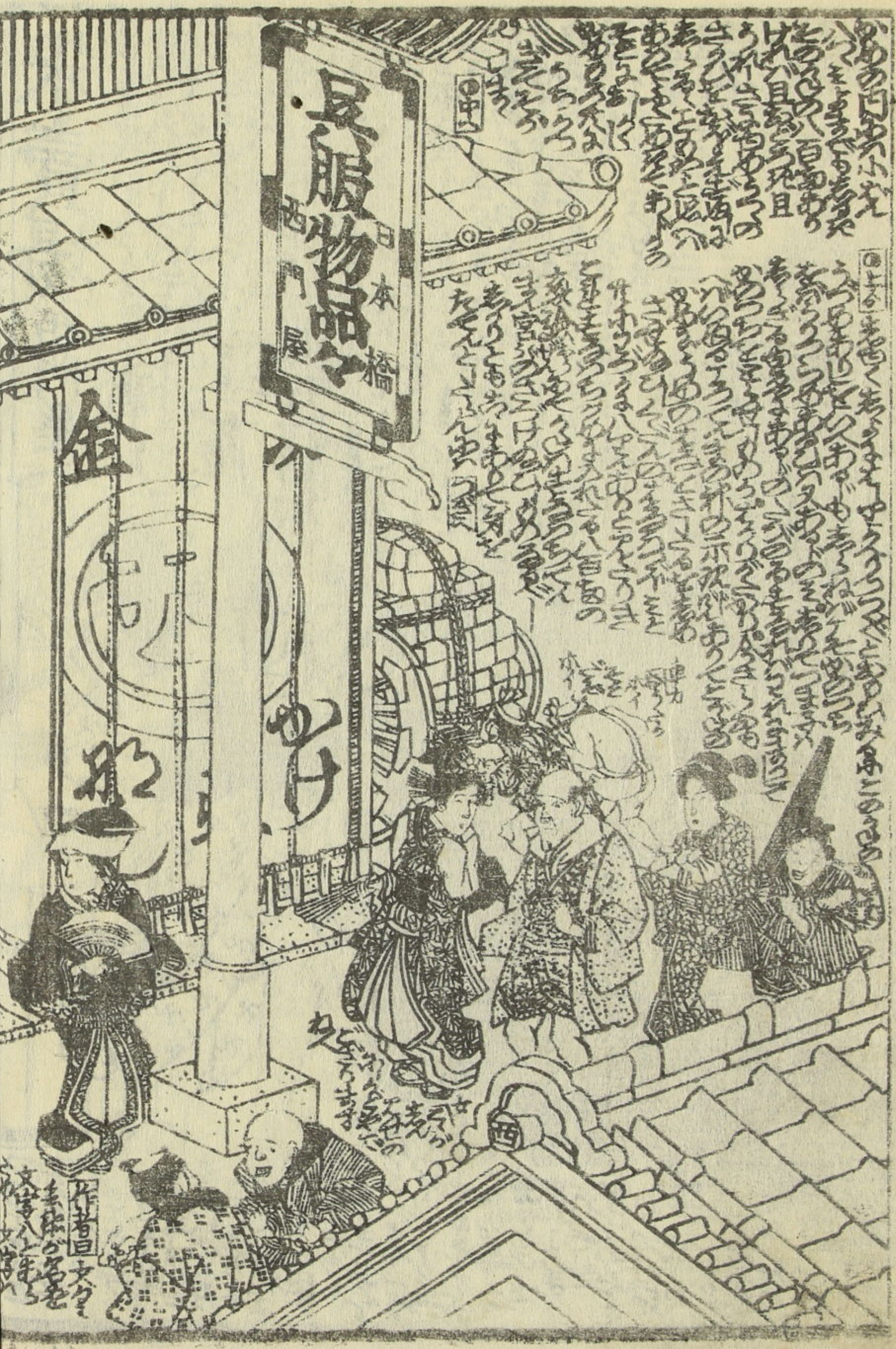
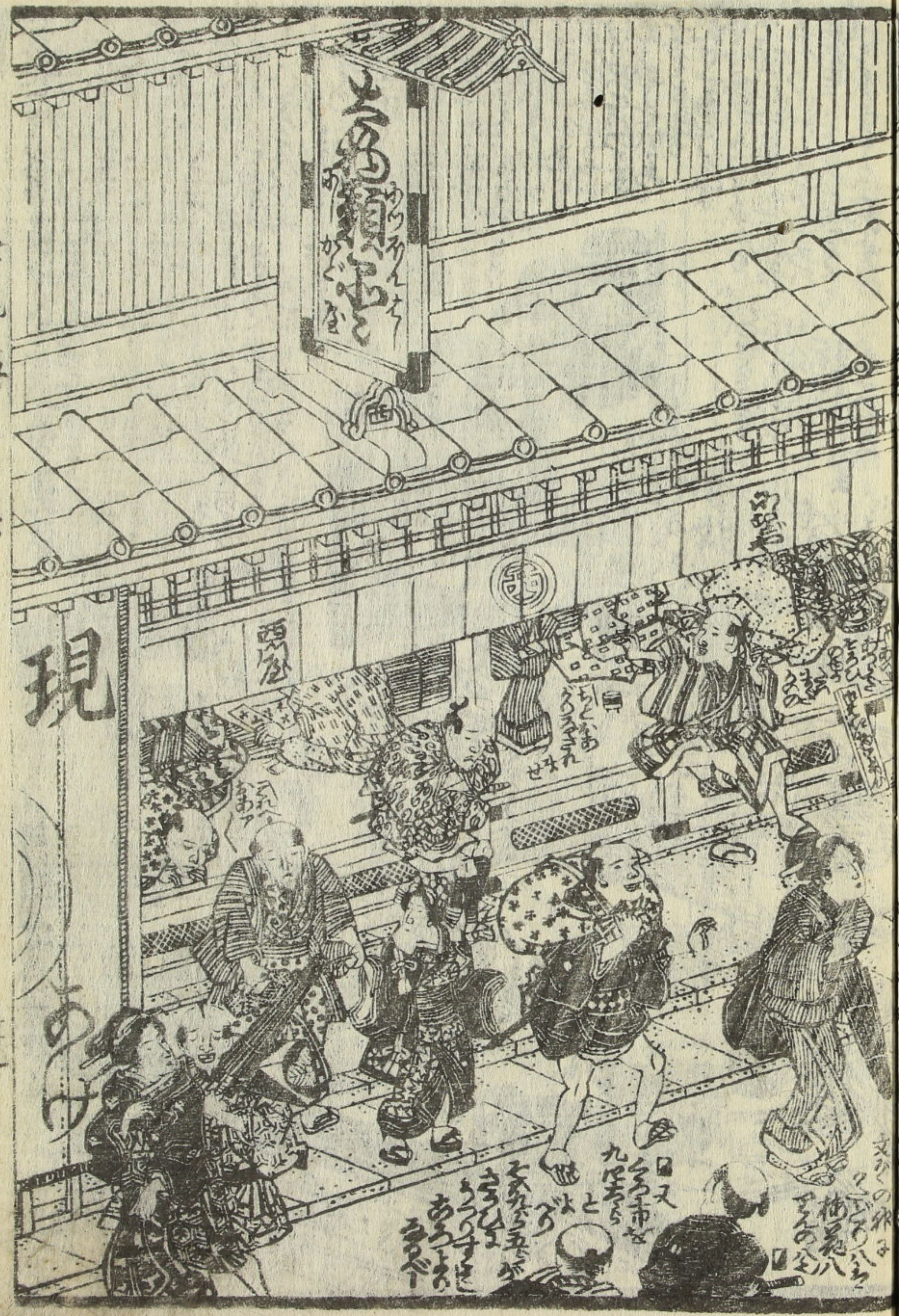
米賣場西門屋

米賣場西門屋の賑わい
西門屋の米賣場は、朝早くから賑わい出す。
客は、米の品質や価格を吟味し、
店員は、丁寧に接客し、
米を量り、袋詰めして、
客に渡す。
この米賣場は、
地域の米産地と、
消費者をつなぐ重要な場所である。



米賣場西門屋の賑わい
客は、米の品質や価格を吟味し、
店員は、丁寧に接客し、
米を量り、袋詰めして、
客に渡す。
この米賣場は、
地域の米産地と、
消費者をつなぐ重要な場所である。

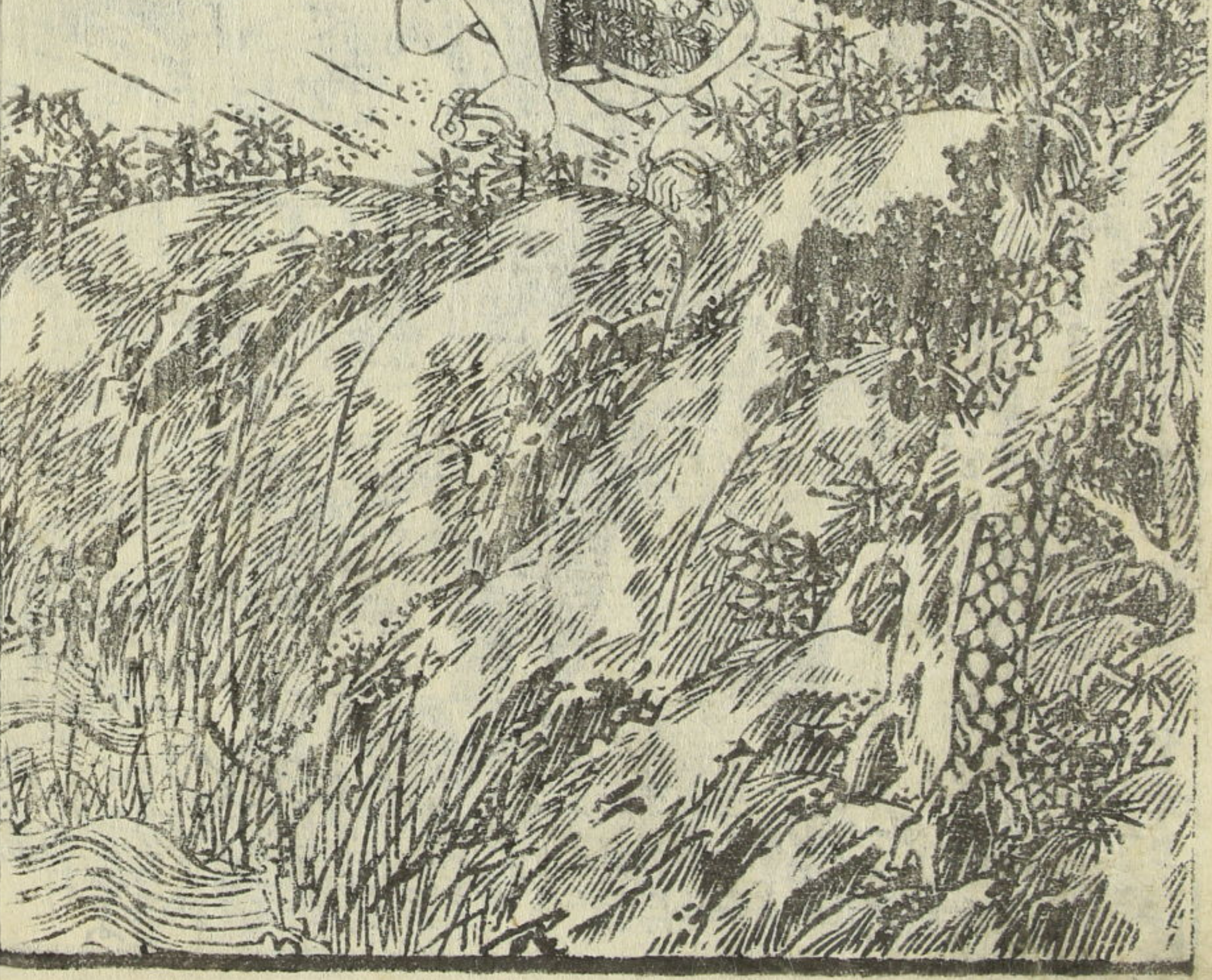




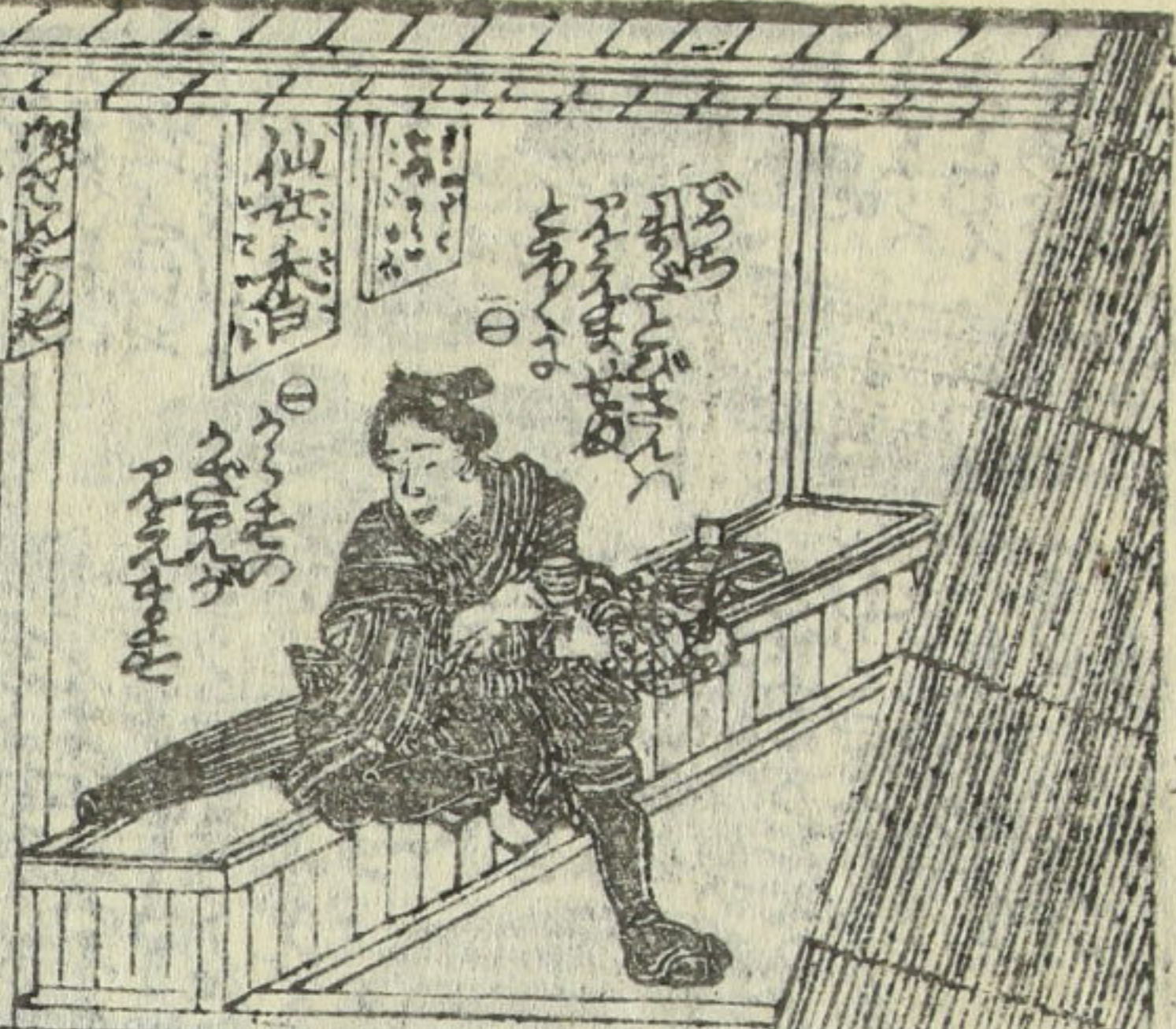
Vertical columns of Japanese text on the upper left page, likely a chapter introduction or commentary.



Vertical columns of Japanese text on the upper right page, continuing the narrative.







Vertical columns of Japanese text surrounding the illustration on the right page, including a large block of text at the bottom.



Vertical columns of Japanese text surrounding the illustration on the left page, including a large block of text at the bottom.

文の... 二分の... 五分の... 六分の... 七分の... 八分の... 九分の... 十分の... 十一分の... 十二分の... 十三分の... 十四分の... 十五分の... 十六分の... 十七分の... 十八分の... 十九分の... 二十分の... 二十一分の... 二十二分の... 二十三分の... 二十四分の... 二十五分の... 二十六分の... 二十七分の... 二十八分の... 二十九分の... 三十分の... 三十一分の... 三十二分の... 三十三分の... 三十四分の... 三十五分の... 三十六分の... 三十七分の... 三十八分の... 三十九分の... 四十分の... 四十一分の... 四十二分の... 四十三分の... 四十四分の... 四十五分の... 四十六分の... 四十七分の... 四十八分の... 四十九分の... 五十分の... 五十一分の... 五十二分の... 五十三分の... 五十四分の... 五十五分の... 五十六分の... 五十七分の... 五十八分の... 五十九分の... 六十分の... 六十一分の... 六十二分の... 六十三分の... 六十四分の... 六十五分の... 六十六分の... 六十七分の... 六十八分の... 六十九分の... 七十分の... 七十一分の... 七十二分の... 七十三分の... 七十四分の... 七十五分の... 七十六分の... 七十七分の... 七十八分の... 七十九分の... 八十分の... 八十一分の... 八十二分の... 八十三分の... 八十四分の... 八十五分の... 八十六分の... 八十七分の... 八十八分の... 八十九分の... 九十分の... 九十一分の... 九十二分の... 九十三分の... 九十四分の... 九十五分の... 九十六分の... 九十七分の... 九十八分の... 九十九分の... 百分の...



文の... 二分の... 五分の... 六分の... 七分の... 八分の... 九分の... 十分の... 十一分の... 十二分の... 十三分の... 十四分の... 十五分の... 十六分の... 十七分の... 十八分の... 十九分の... 二十分の... 二十一分の... 二十二分の... 二十三分の... 二十四分の... 二十五分の... 二十六分の... 二十七分の... 二十八分の... 二十九分の... 三十分の... 三十一分の... 三十二分の... 三十三分の... 三十四分の... 三十五分の... 三十六分の... 三十七分の... 三十八分の... 三十九分の... 四十分の... 四十一分の... 四十二分の... 四十三分の... 四十四分の... 四十五分の... 四十六分の... 四十七分の... 四十八分の... 四十九分の... 五十分の... 五十一分の... 五十二分の... 五十三分の... 五十四分の... 五十五分の... 五十六分の... 五十七分の... 五十八分の... 五十九分の... 六十分の... 六十一分の... 六十二分の... 六十三分の... 六十四分の... 六十五分の... 六十六分の... 六十七分の... 六十八分の... 六十九分の... 七十分の... 七十一分の... 七十二分の... 七十三分の... 七十四分の... 七十五分の... 七十六分の... 七十七分の... 七十八分の... 七十九分の... 八十分の... 八十一分の... 八十二分の... 八十三分の... 八十四分の... 八十五分の... 八十六分の... 八十七分の... 八十八分の... 八十九分の... 九十分の... 九十一分の... 九十二分の... 九十三分の... 九十四分の... 九十五分の... 九十六分の... 九十七分の... 九十八分の... 九十九分の... 百分の...



この頃、武大郎は病に臥し、武松は一日も離れずそばに侍り、湯薬を怠らぬ。武大郎は武松の忠孝に感涙を流し、死を覚悟する。武松は涙を拭き、兄の遺言を聞き、武大郎の遺骸を埋葬し、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。

武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。

武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。

武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。武松は武大郎の遺言に従い、武大郎の仇を討つことを誓う。



馬琴作

此書は馬琴の著する小説で、金瓶梅の精神を繼承し、當時の社會情勢を反映して書かれた。主人公は、ある藩の御用商人で、その生活の内幕が描かれている。...



國安画

湖月百人一首探庫

源氏絵巻 女今川入

繪本名頭武者部類 前北斎筆 全

藤玉百人一首

源氏絵巻 中本 全

姿女百人一首小倉稿

蘭山先生著 女用書牒

女用書牒は、蘭山先生の著するもので、女性の生活や習俗を詳しく描いている。...

鶴賀新内正本所

和泉屋市兵衛

